

なごや環境大学は2025年3月に 開学20周年を迎えます



質問内容

- 1 なごや環境大学と関わるきっかけ、当時の思い出を教えてください。
- 2 苦労したことを教えてください。
- 3 やりがいを感じたことを教えてください。
- 4 これからのなごや環境大学に望むこと、期待することはありますか。



新海 洋子さん

一般社団法人
SDGsコミュニティ
代表理事
なごや環境大学 フェロー

- 1 なごや環境大学が立ち上がる前、準備段階から関わっていました。多様なステークホルダーのみなさんに参加いただきワークショップを行い、「なごや環境大学をどのようにつくっていくか」のアイデアや提案を出しあったことをしっかり覚えています。なごや環境大学は「可能性あふれるしくみであり、器であり、今まで存在しなかった社会実験装置」だと今も考えています。そのために、多くの市民活動団体/NPO、地域団体、企業の方に参加いただきたく、熱く語りあったことを強く覚えています。
- 2 苦労したことは「ない」というか、あったかもしれないけれど「覚えていない」です。
- 3 市民活動団体/NPOの「連帯」と、企業、行政、大学、市民活動団体等の「協働」をどう生みだすかのチャレンジです。CBD COP10^{*1}やESD^{*2}世界会議の開催が「連帯」「協働」を生みだす大切な機会となりました。持続可能な社会をつくるためには、SDGsに示されているように「連帯」「協働」は必須です。 ※1：第10回生物多様性条約締約 ※2：持続可能な開発のための教育
- 4 今まで実践しなかったテーマや課題解決のための「社会実験の挑戦」、この20年間で蓄積した成果や育んだ関係性の育みを活かした「新たな協働による社会変革」でしょうか。「学びを行動に、そして変革に…」がテーマになると考えています。



須網 正人さん

名古屋市歯科医師会
事務局
なごや環境大学 フェロー

- 1 名古屋市職員としての仕事でした。なごや環境大学を立ち上げることがミッションでした。「なごや環境大学」という組織を立ち上げるのは初めてでしたので、無我夢中でした。
- 2 苦労ではありませんが、立ち上げにあたって、市民、企業、NPO、大学、行政等になごや環境大学の趣旨を理解していただき、かつ、事業計画に主体的に参加していただけるよう、色々な方との話し合いを重ねていたことが良い思い出です。
- 3 2の内容と重なりますが、例えて言えば「白い画用紙になごや環境大学の絵を描く」ような作業でした。それをいろいろな方たちと協働して取り組めたことは、大変ありがたくかつ貴重な体験でした。この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。
- 4 「地域循環共生圏」、政府・市場・国民の「共進化」といった考え方が、持続可能な社会の実現のための仕組みや手法として提案されています。なごや環境大学はそれを実現するための良い仕組みではないかと思っています。このような課題にチャレンジし、社会実験的な取組を行うことも、なごや環境大学の存在価値の一つかと思っています。

なごや環境大学は愛知万博が開催された2005年に開学しました。これまで多くの方々に関わり、環境について学び共に育つ「共育」を目指してきました。協働連携団体（累計）は開学当初174団体でしたが、現在は526団体となりました。環境という大きなテーマを軸に持続可能な地球社会を目指す輪を広げてきたなごや環境大学。時代とともに変化してゆく社会の中でなごや環境大学と共に歩んできた皆さんにお話を伺いました。



山田 厚志さん

株式会社山田組 取締役会長
なごや環境大学 フェロー

- 1 松原市長（当時）さん達の開学の想いと仕組みに共鳴し、具体的に支える一員になろうと考えたのがきっかけ。
- 2 市民・NPO・企業・行政・大学人、立場の異なる人達の「協働」は、文字通り「言うは易く行うは難し」でした。
- 3 開学当初は難しいと感じた「協働」が、なごや環境大学の活動を重ねて少しずつ実現していく実感をえたこと。
- 4 今後ますます必要な仕組みとして持続性が担保され、安定した活動を継続することで存在価値を高めてほしい。



亀井 浩次さん

NPO法人
藤前干潟を守る会 理事長
なごや環境大学 講座企画者

- 1 名古屋市が環境重視の政策に転換するきっかけを作ったのが私たちであり、そのひとつの成果として「なごや環境大学」が開始されるということで、積極的に協力していこうという使命感のようなものがありました。私自身が以前から環境教育を専門にしていたこともあって担当となり、辻代表（当時）と相談しながら進めることになりました。
- 2 当初は「大学」という名称を意識して大学レベルの講座を提供しようと考え、プログラムを工夫しましたがその割に参加者が集まらず人集めに苦心しました。
- 3 正直なところ、私たちの想定するテーマにはあまり需要がないことが確認できたぐらいで徒労感が大きかったです。「大学レベル」という条件を外してファミリー向けの企画を多くしたら参加者は増えましたがそれが「環境大学」にふさわしいか疑問です。
- 4 20年間継続したことは評価すべきと思いますが、存在が自己目的化しているという印象があります。もっと危機感をもって考えるべき環境関連の問題がいろいろあるので、「楽しい」だけではない問題提起をしてほしいです。需要との兼ね合いが難しいかな。あと名古屋市が申請した「ラムサール条約湿地自治体認証」に向けて市全体と連携した企画を期待しています。



岡本 明子さん

環境カウンセラー
なごや環境大学 講座企画者

- 1 講演会講師など受動的な仕事だけではなく、自ら講座を企画したかった。個人でもエントリーできるなごや環境大学は絶好の機会だった。
- 2 2005年から見学型環境講座を企画、多くの機関との折衝が必要だった。当時『なごや環境大学』の知名度が低く、面会すらままならなかった。
- 3 テーマに沿った企画が組みあがった時。関係機関・関係者の環が広がった時。普通ではできない体験を通して暮らしと環境の関係を考えたと言われた時。
- 4 環境は懐が深い。様々なアプローチがあるといい。ただ、公的機関が仕切る事業、偏執・固執は避けて欲しい。幅広い企画者を集めつつも、質の担保をお願いしたい。

2025年にはなごや環境大学開学20周年を
記念して様々な事業を展開していきます。

ご期待ください。



なごや環境大学20周年記念 インタビュー第2弾！

なごや環境大学 開学20周年

皆さまに支えられ、なごや環境大学は2025年3月で20周年を迎えました！愛知万博が開催された2005年から多くの方々とのパートナーシップを組み、環境について学び共に育つ「共育」を実践してきています。様々な立場の方が知識や経験を「持ち寄り」、また協働実践の場から「持ち帰り」もしていただきました。これまでなごや環境大学と関りを持ってくださった皆さまに深く感謝いたします。

多くの方々の「共育」の輪をひろげ、持続可能な地球社会を広げてきたなごや環境大学ですが、開学当初から今でも皆さまと対話を重ね支えてもらっている実行委員の皆さまがいます。なごや環境大学20周年記念 インタビューの第2弾としてお話を伺いました。

質問内容

- ①現在のなごや環境大学との関りと開学当初の思い出を教えてください。
- ②なごや環境大学に関わった20年の中で思い出深い事業、事柄はなんですか。
- ③これからのなごや環境大学に期待することを教えてください。
- ④ズバリ！「なごや環境大学」とは？！



千頭 聡 さん
日本福祉大学国際学部 特任教授 /
なごや環境大学 実行委員

- ① 大学で学生たちとSDGsの普及啓発事業に取り組みつつ、アジアの発展途上地域で持続可能な開発のあり方を現場から考えています。NPO第一世代として関西で環境学習に関わる活動もしてきました。なごや環境大学には、20年以上前の「基本構想」策定検討委員会の時代から、一時期を除いて継続的に活動にかかわってきました。
- ② なごやを環境首都にするという元松原市長の熱い思いと、自分たちでなごやを変えていこうとする多彩な実行委員の刺激的な議論や行動力がなごや環境大学を創り、動かしてきました。実行委員や事務局メンバーから、新しい提案がどんどん生まれ、形にしていけることができたこと、そして、周りからも素晴らしい提案が持ち込まれてきたことが一番の思い出です。
- ③ 表面的な形をつないでいくことはそんなに難しいかもしれませんが、想いをつないで発展させていくことは、実はとても大変でエネルギーが必要なことだと痛感しています。社会を持続可能なものに変えていくという想いをぶつけ合い、社会に対してきちんと未来を目指すボールを投げかけることにより、社会の中で存在価値がある活動にしていけることが必須だと思っています。そんなことに共感できる仲間を広げていきたいです。
- ④ 協働と多様性の中で力を発揮する活動主体。



松本 イズミ さん
NPOフイトラボ 代表 /
なごや環境大学 実行委員

- ① 開学当初より立場を変えながらずっと関わっています。当初は共育講座の主催者として、「なごや環境大学」というしくみのコンセプトに賛同して参画しました。はじめて構想を聞いた時から開学までの間のワクワク感は今でも覚えています。
- ② どれも思い出深いのですが、プロジェクト等を進める中で、立場や専門性、価値観が違う人々と関わりながら、対話を重ね、...、ようやくすりあった！という瞬間！！そして力が合わさった際の力強い動きを感じたとき、この輪の中にいられてよかったなあ、と思います。
- ③ 実行、実践する人をひとりでも多くつくること。待ったなしの課題はたくさんあります。行動するしみをひとりでも多く増やし、解決への道筋の一助でありたいですね。
- ④ ひとりでは、また、ひとつの団体ではできないことを、共に手を取り、大きな力に増強して実現への道を辿るための「しくみ」。たくさんの志と出会い、共に育ち、持続可能な社会への道のりを歩む仲間との出会いの「場」。



岸田 眞代 さん
岸田パートナーシップ研究所 代表 /
なごや環境大学 実行委員

- ① 元パートナーシップ・サポートセンター(PSC)の代表理事をしていました。2005年の当初は、NPO中間支援団体がかわることで、NPO支援を強化していこうという空気が強く、NPO相談などを持ち回りで関わっていました。その後、他の中間支援団体が退いた後も、PSCとして、事務局次長を派遣するなど、なごや環境大学の事務局を陰で支える仕事に関わらせていただきました。
- ② 思い出深いのは、なごや環境大学の事業やそこに関わる各セクターの方々へのインタビューやまとめで任せていただき、冊子の中で紹介させていただいたこと。また事務局次長の派遣要請を受け、送り込んだスタッフが企業経験者だったことから、当時のなごや環境大学の事務局に、新たな役割を果たすことができたことでしょうか。
- ③ なごや環境大学は、まさに各セクターによる協働実践の場であり、そこを抜きにはせつかくの場が勿体ないと思います。協働による新たな仕組みや事業など、大いなる可能性を積極的に展開していく場として、より効果的な仕組みをつくっていくこと。そのための人材を養成することが求められていると思います。
- ④ あらゆる可能性を秘めた、協働実践の場



長谷川 明子 さん
ビオトープ・ネットワーク 中部会長 /
なごや環境大学 実行委員

- ① ビオトープ管理士として、生きものと私たちの豊かさを持続する方法を模索しています。設立時の主催講座「なごや環境学」を担当したのが私のスタート。「Think globally, Act locally.」を意識した講座でした。
- ② 2010年に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。それに向けて、国の元気再生事業として採択された「おやちいプロジェクト」を市民の皆様と実施しました。身近な公園の生物多様性を高め、生きものたちと自分とのつながりを意識してもらうことができました。会議期間中は、なごや環境大学のブースで「環境と開発に関するリオ宣言」の積み木を来場者にピラミッド状に組み立ててもらい、完成すると正面は27の原則のイラストが、右側には山から海までの風景が、左側には生きものたちが浮かび上がり、裏面には世界中から来た人たちにメッセージを書いてもらいました。日ごとに増えていく心強い熱い想いに、励まされたことが思い出されます。
- ③ お互いに学び合い、よりよい名古屋、地球となるような「行動」を支える組織であって欲しい。そのために、より具体的な社会実験を行っていく事を期待しています。
- ④ 持続可能な社会に向けて、市民と行政、企業、専門家が一体となって行動する場。



2025年は、なごや環境大学20周年を記念した事業を展開していきます。これからのなごや環境大学もよろしくお願いたします！